



謹賀新年 新年あいさつ

新年明けましておめでとうございます。

昨年も組合員の皆さんと共に運動を創り出してきたことに感謝申し上げます。

大宮地本も結成から1年半が過ぎました。この間コロナ禍によって活動が十分ではないなか、仲間同士が堅い絆で支え続けて来ることが出来ました。ありがとうございます。

昨年1年間大宮地本は、分会・地本と近い距離を生かして、職場の問題、課題の解決に向けて前進させてきました。2021年3月ダイヤ改正や南浦和駅上中線留置問題、そして直轄除草作業について、組合員の声に基づいて団体交渉を実施してきました。全ての期待に応えるまでには至っていませんが、輸送サービス労組大宮地本としての形を現すことの出来た1年であったと思います。

また新たなジョブローテーション施策による人事運用によって、他支社から輸送サービス労組の仲間が異動されて来られました。大宮地本は組合員が組合員を互いに支えていこうと組合員と共に、他支社から異動し環境の変化や業務に不慣れで不安な仲間のために、激励会や全組合員交流意見交換会を開催してきました。今後も組合員の考えや規模に合わせ柔軟なやり方で意見交換やレクリエーションを行いながら組合員同士の絆を深めていきます。そして絆を深めていながら職場の課題に取り組み、今まで出来なかった職場でも団体交渉を実施していき、その運動の成果を組合員皆さんが実感し、職場の仲間たちへ訴え、組織の拡大・分会結成へと繋げていきましょう。

輸送サービス労組大宮地本としてこの1年は、私たちの労働の価値と、鉄道の公共交通機関としての役割を考えていかななくてはなりません。

コロナ禍による大幅な収入減、赤字が続く、厳しい経営状況であることは言うまでもありません。そのなかコスト削減のため、職場の業務の見直しが進められ、また職場の要員の不足や委員会やプロジェクト活動と休日出勤や超過勤務も増えています。仕事がキツくなったなどと声が聞かれます。そして、昇給係数2や期末手当年間4.0ヶ月と過去最低の水準となりました。今年は、乗務員の業務の見直しがされ、乗務員基地の再編や宇都宮線・日光線のワンマン運転開始と営業統括センターの新設、本社支社の組織再編が実施されようとしています。昨今、矢継ぎ早に進められる施策による労働環境の変化は、待遇が変わらない私たちの労働の価値として果たして相応しいのでしょうか。そして、今の日常に於いて充実した余暇や生活が送られているのでしょうか。私たちの労働の価値を高めるために、2022年春闘や総合労働条件改善の運動を強めて繋げていきましょう。

またワンマン運転や運転本数の見直し、駅の無人化が進めようとしています。移動手段を持たない人やお身体の不自由な人などの交通弱者の立場に立って考えていかななくてはなりません。昨今では、京王線殺傷事件、大阪ビル放火事件の凶行事件が発生しています。防犯カメラの強化だけでは犯罪の抑止力にはなりません。いつも近くに社員がいることで犯罪の抑止力や旅行に不慣れなお客さまへのご案内が出来ることで、お客さまに喜ばれ、鉄道の品質向上に繋がります。JR東日本としての健全経営を進める必要はありますが、私たちは単に収入確保、黒字必達のためではなく、鉄道の品質を高めつつ公共交通機関として役割を忘れずに、現場の現実を目を向けるところから問題意識を上げ、今新たな施策を実行するために必要な環境を整えるように現場からの声を上げていかななくてはなりません。

最後に私たち大宮地本は、組合員が組合員を支えあう「協働」を目指していきます。組合員を支え、分会を支え、地本を支える。仲間に働きかけ、仲間と一緒に楽しく過ごし、仲間と困難を乗り越えていく、それは人間らしさ、働きがいです。組合員、分会、地本、みんなで更なるレベルアップを目指していきましょう。

2022年もどうぞよろしくお願いいたします。